



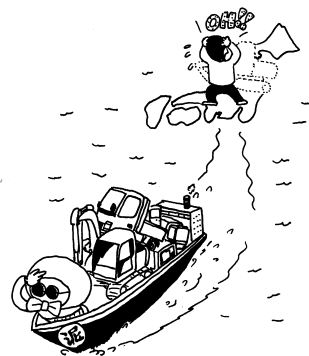
STOPザ盗難

大切な愛機を守るために役立つ事を考えましょう

何トンもある油圧ショベルが忽然と姿を消す。目立つはずのダンプが消える。あるいは現場の関係者が見守るなか、白昼堂々と持ち去られる。こうした建設機械や車輛盗難の手口は大きく二つに分かれます。一つは、人影の絶えた深夜あるいは未明、現場に置いてある機械をこっそり盗み出す「隠密タイプ」。もう一つは、衆人監視のなかを堂々と盗み出す「大胆不適タイプ」。世の中の不景気を背景に、こうした建設機械の盗難が世間では急増しています。しかも、最近は保険があるからと安心できなくなりつつあるのです。その理由は、あまりの急増ぶりに保険の引き受け基準が厳しくなってきたからです。

また、無事に保険に入れたとしても現在は保険料は高くなる傾向にあり、利益の幅が狭くなりつつある昨今では保険に入ることも思うようにならないのが現状です。今、急増する建設機械盗難の実態と自衛策について考えてゆきましょう。

今までの盗難ケースからは決まったパターンを見いだすことは難しと思います。せいぜい、夜中から未明にかけて盗まれる、運搬車の横付けしやすい現場、白昼堂々と盗まれても不審に思われない状況があるということぐらいでしょう。盗難を予防するためには、もうちょっと特徴が知りたくなる。そこで盗難に会うことが多いレンタル業界の話を総合して紹介しましょう。ある大手レンタル会社では、「特に被害が多いのは中古の中型ショベルです。この背景には中型ショベルが中国などのアジアで品薄状態になり、アジア地域での中古オークションで高値がつくようになってきていることがある」と指摘する。こうした背景がある限り盗難は減りそうもないですね。そこで今後の参考に各レンタル会社の話を元に盗難の特徴をまとめてみました。



ケース1

狙われるのは現場に置かれた中型機が多い。また、発電機などは一度に数台盗られる事も珍しくない。

ケース2

盗難発生には地域性がある。1月は集中的に東北が狙われ、2月は関東、3月には中部といった具合。ある地域でひとたび盗難が発生すると、一定の時期連続して起こる。そして移動する。これは窃盗団がその地域性を十分に調査し、その上で犯行を行っていると考えられる。

ケース3

新車は疑われやすいため、2~3年使用された機械が海外の中古市場で取引される。したがって、新車よりも中古車の方が盗まれるケースが多い。

ケース4

時期的には土日をはさんでという被害が多い。またお正月やゴールデンウィークなどの大型連休中の被害も多い。これは、現場作業が休みの場合が多いこと、また万一不審に思われてレンタル会社に連絡がいても休日でも連絡が取れないということを考慮していると思われる。

ケース5

昼間と夜間の盗難率に関しては、圧倒的に夜間が多い。工事現場が舞台となるため、深夜窃盗団のトラックが横付けされても、誰も不振に思わない現状がある。

対策について

建機メーカーも盗難防止に乗り出しており、GPSを搭載して盗まれた重機を発見しやすくしたりしているモデルも出てきております。また、機体別の個別キーへの対応も検討しており、最近是不審な操作を行うとエンジンが始動できなくなるものも登場してきました。

いずれにせよ、建設機械の盗難防止策は「これだ」という決め手がないのが現状です。盗まれても「どうせ保険がある」と考えていると、結局は高騰した保険料がレンタル料金に反映したり、自社保有機の保険料が高くなるなど、使用者にその火の粉がふりかかることは目に見えています。

最終的には「盗まれてもおかしくない」と認識して、ハンドルロックやセキュリティアラームなどの防犯商品の採用や、現場近辺での不審な動きなどに対して敏感に対応することが盗難防止策の近道なのです。泥棒は簡単に盗れる物を探します。ちょっとした工夫が大きく防犯に繋がりますので、実践してみてください。

自己防衛に乗り出した保険業界

今までは「保険があるから安心」という意識が強かった。ただ、これだけ盗難が増えると、保険会社も保険の引き受けに消極的になることも仕方がない事ですね。「1千万円を超える大型建設機械の盗難が増えています。われわれは警察への盗難届が出された物件をもとに調査を行って、免責事項に該当しない限り保険金をお支払いします。ほとんどの場合は、屋外で盗まれるようです」(S海上火災保険株式会社 火災新種事故サービス部談)

【重過失】

盗まれると分かっている見逃した場合やカギをキャビン内部に置いていたなど明らかな過失が認められる場合

【使用・管理の委託者が盗んだ場合】

機械を預けていた者が盗んだ。 個人事業主の同居の親族が盗んだ。

【詐欺】 機械を騙し取られた。

例えば、盗難されたと被害届を出した会社が保険金を入手した段階で倒産、機械は窃盗団などに販売して現金を入手し、かつ保険金も手に入れるという悪質なケースも過去にはあり摘発されている。

現場のみならず保険会社の財布の紐も固くなってきています。現場での防犯は地道な活動により防ぐことができるので、「自分の機械は自分で守る」を合言葉に盗難防止に努めて下さい。

盗難予防グッズも HAGIHARA にお問い合せ下さい



ハンドルロック

振動アラーム

